

戦争準備の教育を、繰り返してはならない

いのちと平和を考える会

稲葉 耕一



戦争準備のために日本学術会議を権力の支配下に置く「学術会議解体法」が6月の参議院本会議で可決成立した。戦争準備を進める時の政府の意向に沿わない学者を「解任」できる。この参院選で、外国人への差別を煽る排外主義が台頭した。あつたことを無かつたことにする歴史修正主義も横行している。これも戦争（準備）も自国第一主義だ。戦争準備は実質平和憲法改悪である。

個人は国家のためあるの？

子どもたちに対する戦争準備（教育統制）はどうか？ 18歳と20歳の若者の名簿を自治体が自衛隊に提供している。子ども防衛白書が自民党政権の防衛政策そのまま子どもに「理解」させようとしている。奈良教育大附属小で、創意工夫して教育実践する教員達が「出向」（強制転勤）させられた、全国で「君が代」・「日の

丸」使われぬ教員が処分されてきた。広島市では平和教育副読本から「はだしのゲン」や「第五福竜丸」を削除された。教育勅語賛美の動きもあちこちに。戦争準備のために、教育内容を改悪する、権力に逆らわない教員にしていくな攻撃が続く。

戦中戦前の教育は、「教育勅語」を教育の真髄とされ、国定教科書であつたし、戦争中は軍人が学校に配置された。国・天皇・戦争のために、個人は国家に奉仕するもの（戦死すれば「誉」）との考えであつた。国家権力が教育を支配していた。たくさん子どもを戦場に送り、「銃後の守り」も強いた。加害と被害の犠牲者をたくさん生み出した。戦後の政治と教育はこの反省の上に憲法や教育基本法がつくられている。国家と個人の関係は？ 個人は国家のためにあるのではなくて、国家は人間の尊敬、個人の幸福のためにある。戦前と正反対である。これが教育の根本的な転換であつた。そのために教

◆特集 新自由主義がもたらす自国第一主義

育行政のあり方を10条で次のように述べている。

国家は教育内容に介入するな！

第10条「教育は、不当な支配に服することなく、国民全体に対して直接に責任を負って行われるべきものである。②教育行政は、この自覚のもとに、教育の目的を遂行するに必要な諸条件の整備確立を目標に行わなければならない。」すなわち、国家権力による「不当な支配」(教育介入)を許さず、国家のためでなく「国民全体に対して」責任を持つていっていることであり、教育行政(文部省や教育委員会)は、子どもたちが勉強しやすい教育条件(教職員の働きやすい労働条件も)を整備確立することであるとしている。素晴らしい姿勢だ。だから当初は学習指導要領も単なる「試案」であり、子どもや地域の実情に応じて教職員で自主的に創意工夫して授業が進められ、教育委員会も公選制であり、職場に自由と民主主義を、教室に真実をと活気づいていた。

しかし戦後の教育の歴史はこの民主・平和教育の土台(教育基本法)を骨抜きし実質改悪への道であった。特に朝鮮戦争の頃からアメリカの対日政策が対社会主義国という反共へ変化して、警察予備隊の創設、自衛隊へ

の変質に伴い、教育も、教員の勤務評定(後は人事評価に)、道徳教育の特設(後は教科)、全国学力テスト、学習指導要領の何回にも及ぶ改悪や法的拘束力の強化、「働かせ放題」の給特法の制定などなど反動教育政策、多忙化政策が強行された。そして第一次安倍内閣の時、教育基本法の改悪(2006年)である。

「日本を取り戻す」と、教育の目的に「愛国心」を育てることに。教育行政は「不当な支配に服することなく」の文言は残しながらも、国民に対して直接責任を負うのでなく「この法律及び他の法律の定めるところにより」や「教育振興のための施策」の基本方針や計画を、と国家の関与をしやすくしている。この改悪以降、教育再生会議や地方自治体の首長らも出席する教育総合会議などにより教育行政(権力)の教育内容への介入が強まっている。コロナ拡大を利用した政権と教育行政はこれに拍車をかけた。

どんな教科書を？ 誰が決める？

教科書問題を考えよう。教科書検定強化(悪化)により南京大虐殺の人数をぼやかしたり、朝鮮人の「強制連行」や「従軍慰安婦」を書かせなかったり、沖縄戦の

1995 年天理市が設置した柳本飛行場跡説明板内容

～天理市長が一方的に撤去した説明板～

「2014年に天理並河市長が一方的に撤去した、柳本飛行場跡の説明板に書いてあった説明はどんな内容だったのか？」とよく聞かれるので、ここにその全文を紹介いたします。

大和運輸航空隊大和基地跡について通称「柳本飛行場」 一九四四年昭和十九年九月十五日から、大和運輸航空隊の飛行場「通称柳本飛行場」の建設がはじまりました。建設事務所は、柳本駅前西側におかれ、労働者の宿舎も連一、般団体からの労働者住宅も附けこの工事が進められていきました。飛行場用地は三〇〇ヘクタールといわれ、そのうち二七〇一八〇ヘクタールは柳本町領でした。同村の田畑全部面積は二〇〇ヘクタールといわれ、五五％以上が軍公用に徴収されました。（並河市長の抜粋） 工事は川の付け替えから始まり、神社・墓地なども廃棄や移転が命ぜられました。 この建設工事には多くの朝鮮人労働者が動員され強制連行によって、柳本基地へつれてこられきびしい労働状況で働かされました。 強制連行された人たちは、次のように証述しています。「慰安所にいきなり連れて入られて連れて行かれた。一九四三年の秋だ。」 こうして連行されたあと、強制連行に乗せられたのが柳本だ。た何百人いた。私の村からは四人いた。とかく多かったです。 「朝土時に起きて、飛行場建設にあつた。沖縄戦が始まってきたら、夜にも（この斜面）トネルを掘られた。」 （朝鮮）強制連行で天理柳本飛行場、奈良・飛騨にも会った経験があります。慰安所が設置され、そこへ朝鮮人女性が、強制連行された事実もあります。その女性たちの過酷な半生は戦後、切かわけていませぬ。 平和を希求する私たちは歴史の事実を明らかに、二度くりませんし、ならないことを正しく後世に伝えるために、この説明板を設置いたします。 天理市 天理市教育委員会	「集団自決」での日本軍の指示を削除したり、戦争美化する教科書会社ができたり、その教科書を採択させる道をつくったり、心配、危険いっぱいである。私が現役の時小学校社会教科書の現場採択委員に委嘱されたことがある（職場代表、市代表でなく教育委員会による委嘱で民主的でない）。いくつかの市町村の広域採択である。5人ぐらいの教員で、全社の教科書の内容点検し、より
--	--

子どもにも歴史修正主義 市教育委員会も設置者となっているが、子どもたちに正しくこの歴史を教えてほしいとの願いだった。証言史実の「強制連行」「慰安所」をなかったことにして、教えようということか？

マシな教科書を、5人話し合いまたは多数決で、1位、3位の教科書会社の順位を決めて教育委員会へ出す、すると無条件で、1位の教科書会社が採択になっていた。ところが最近では、順位は書くな、各社の特徴を書いて出せ、採択を決めるのは教育委員会となっているらしい。大工さんらは自分が毎日使う道具は自分で選ぶ、なぜ教員は毎日毎時間使う、教科書を教育の専門家でなく子どもと日々接してない教育委員（会）が決めるんや、政治的歴史的に悪い教科書が徐々に増えている。昨年天理市憲法を生かす会で2回教科書展示会場へ中学校歴史教科書の内容調べに行き、あまりにも良くない（学徒戦場動員を「志願」としたり、特攻隊員の戦死を「散華」とする戦争賛美の）教科書会社のだけは採用しないほしいと要望を市教育委員会へ出した。その教科書は採用されず、他のマシな教科書が採用された。

今日の教育現場は、たいへん。長時間・過重労働・多忙になっている。教育労働者自身が労働条件改善、戦争加担教育反対など立ち上がるべきだが、戦争準備の教育統制問題を、保護者・労働者・市民の労働条件改善、憲法改悪阻止、戦争準備反対運動として、共に闘っていく私たちの姿勢と行動も問われているのではないかと？

（いなば こういち）